

【4】3年間の成果

就労支援・ソーシャルスキル向上支援・学力向上支援等の複合的効果が考えられ、本県独自調査「生徒の意識等に関する調査」（毎年7～8月実施 2月結果公表）29年度結果での自己有用感や社会参画に関する項目「自分には良いところがある」・「人の役に立ちたい」において検証を行った。依然として全日制課程より低い状況にあるが、追跡の比較（前1年と現2年）では、「自分には良いところがある」が全日制が2ポイント減少したのに対して、定時制課程は1ポイント減少にとどまっている。「人の役に立ちたい」では全日制課程3ポイント減少に対して、定時制課程は増減がない。定時制課程2年での3年間（27年度から29年度）の変化を見ると、「自分には良いところがある」が2ポイントの増加、「人の役に立ちたい」が22ポイント増加といずれも伸びている点が評価でき、27年度から取り組んでいる本事業での支援の効果がうかがえる。（※①～④のうち、協力校該当部分については文末に校名を記した。）

①「つなぐ」支援体制の構築

28年度の検討会議で、定通教育の実践内容の積極的な広報と、就労支援の充実（早期離職対策を含む）等の指摘があった。広報については、成果報告会を開催し、プロジェクトの成果を全日制課程の高等学校や特別支援学校へ広報する計画であったが、台風のため中止となった。就労支援の充実については、就業体験や外部講師による講演等で充実を図った。また、教頭による連絡会と委員による検討会議で役割を分担し、情報共有と事例検討、事業執行に係る指導評価を行った。連絡会は教頭会を活用することで、5回開催し、緊密な情報交換を図ることができた。

このほか、共通の課題に対する教員研修会（特別支援教育、学習評価、ソーシャルスキル等）を合同で実施し、情報交換や情報共有に役立てた。

②特別な支援を必要とする生徒への支援

支援相談員の活用数は、拠点校・協力校ともに増加した。27・28年度同様、支援が就職につながった例、資格取得への意欲向上につながった例等が認められた。特に拠点校通信制課程生徒に対する支援が充実し、登校日の少ない生徒に対しても積極的な支援を働きかけた。

特別な支援を必要とする生徒に対し、HR担任、教科担任、管理職、スクールカウンセラーを交えたケース会議を開き、各授業での様子を確認するとともに、今後の支援について話し合い共通理解を図ることにより、一貫した指導を行うことができた。

③就労支援

働くイメージを具体的に描かせるため、外部講師としてキャリアコンサルタントを招聘し、2・3年次の早い段階から就職に向けての意識を高めた。28年度には、社会に出たときに必要な職業観や就業体験に向けた心構えを学習したが、29年度は、実習的な学習や就業体験等を通して、既習の内容の定着を図ることができた。また、「夜間部カフェ」を運営し、校内就労体験の実施し、教員や生徒がコミュニケーションを図ることで、社会生活を営む力を培うことができた。

外部講師による「バイク整備実技講習」、「ものづくり実技講習」、「美容体験講習」を実施し、勤労観の育成と、就職にあたっての選択肢拡大を図ることができた。（鳴門高校）

キャリア教育充実の視点から、講演会を実施し、企業が求める人物像などを知らせることで、生徒の就労意欲の向上を図ることができた。(名西高校)

職場体験や職場見学を実施し、就労への動機付け、働く意義や働き方について意識させる機会を提供できた。講演会や進路ガイダンスを通して、進路実現に向けた取組方や考え方について学ぶことができた。(池田高校)

④ ソーシャルスキル向上支援

「とくしま中央一座」で「人形劇」や「絵本の読み聞かせ」を本校文化祭を皮切りに、保育園や障がい者施設で上演会を行い、芸術的表現活動を通して自らの自信を取り戻し、周囲から評価を受け感謝されることで達成感を味わった。この経験が生きる力となり、福祉や教育の分野、「ものづくり」の分野で活躍する卒業生が育っている。また、「総合的な学習の時間」に「ソーシャルスキルアップコース」を設定し、課題を抱える生徒に対し実施し、コースの中では、良い環境で過ごすことができるなど一定の成果があった。

外部講師による「ヨガ体験講習」を実施し、体を動かす楽しさや心と体のつながりを実感するなど、体験を通して、内面の美しさを磨くことの重要性を学んだ。

地域の文化的発展に貢献している「シンガーソングライター」や「ダンスチーム」との交流を通して、郷土を愛し、社会に参画する意識を向上し、表現活動を通じて郷土愛や自尊感情の醸成につなげることができた。(池田高校)

⑤ 学力向上支援

放課後支援として、難易度の高い国公立大学志望に対する生徒に対する支援や基礎学力の向上を図る支援を行うため、個別指導を行い、学習習慣が身に付くとともに、学習意欲・学力の向上が図られた。

各種検定の資格取得を目指した書籍活用や講座を開設し、合格に向けた学習を行うことで確かな学力を身に付けさせるとともに、検定に合格することで就職や進学に活かすことができた。(富岡東高校、徳島科学技術高校)

⑥ 成果

27, 28, 29と年度を経るごとに、支援相談員の活用、特別な支援を必要とする生徒に対する支援、就労支援、ソーシャルスキル向上支援、学力向上支援、各校のどの取組も充実して、内容も深化してきている。それとともに、各校や関係機関との連携も密になってきている。結果として、生徒の自己有用感のポイント上昇に現れている。この事業で構築した支援相談体制は、全日制課程の高等学校や特別支援学校の生徒にも有用である。そのため、事業の成果を定時制・通信制課程の高等学校だけでなく、全日制課程の高等学校や特別支援学校へと、拡大普及するため、成果報告会を開催する計画であったが、台風のため、中止を余儀なくされた。機会があれば、成果報告会を実施し、この事業で構築した支援相談体制を、広く普及したい。

正しい勤労観及び職業観の育成を目指して
～学校設定教科「職業」の取組

徳島県立徳島中央高等学校
定時制夜間部

1. はじめに

1. 徳島中央高等学校とは

本校は、定時制課程夜間部、昼間部、通信制課程の3つのコースから成り、県内唯一の定時制・通信制課程独立校である。本年で、創立40周年を迎え、卒業生は6000人を超える。時代の流れとともに、勤労学生のための学校という一面が縮小し、近年では、他校を退学した生徒、あるいは、中学校時代に不登校を経験した生徒が入学している。そのため、生活面、学力面、健康面、そしてソーシャルスキル面において、何らかの支援が必要な生徒が増えてきた。

1. はじめに

2. 定時制夜間部

○単位制普通科

○在校生徒の7割以上が中学校時代に不登校を経験

○現在、生徒の約6割が何らかの仕事に就いている

1. はじめに

2. 定時制夜間部

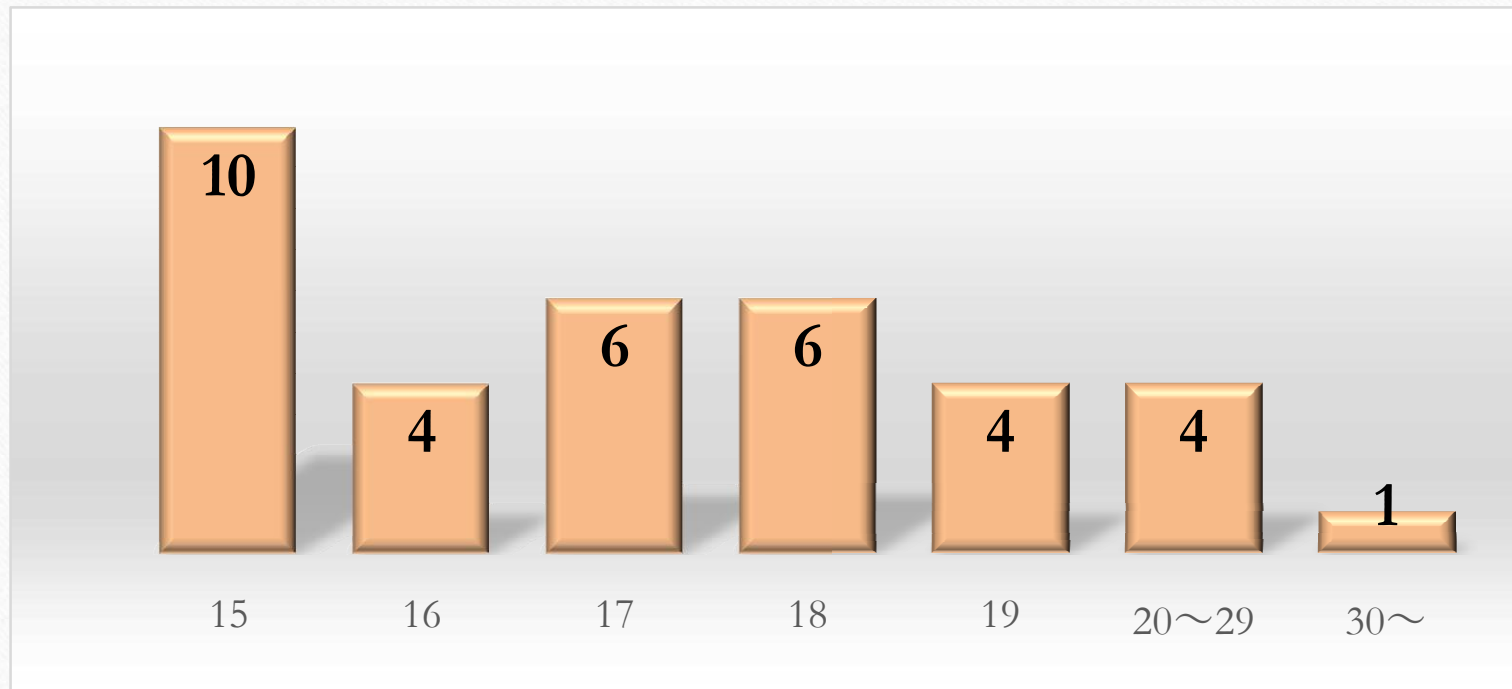
在籍生徒数(平成29年5月1日現在)

| 学年 | 男子 | 女子 | 合計 |
|-----|----|----|----|
| 1年次 | 8 | 4 | 12 |
| 2年次 | 4 | 2 | 6 |
| 3年次 | 4 | 4 | 8 |
| 4年次 | 7 | 2 | 9 |
| 合計 | 23 | 12 | 35 |

1. はじめに

2. 定時制夜間部

年齢別生徒数



1. はじめに

3. 多様な学習を支援する高等学校推進事業

平成27年度より、文部科学省から「多様な学習を支援する高等学校の推進事業」の指定を受け、本校を拠点校として、県下の定時制高校と連携しながら、「多様な生徒」に対する支援の方法等について研究を進めている。

拠点校:徳島中央高等学校

平成27年度
協力校2校



平成28年度
全ての定時制高校(5校)が協力校に



平成29年度
効果的な支援の取組を全ての高校に普及

1. はじめに

「つなぐ」徳島プロジェクト ～「支援・相談」でつなぐ生徒の未来～

高等学校定時制通信制課程生徒の現状

- 自己有用感が低い、分からないところを教師に尋ねる割合は高い。
- 成功・達成体験に乏しく、将来の生き方を「えがく力」が不足している。
- 従来のイメージから、企業からの求人数が少ない。

課題

- 多様な支援を効果的に「つなぐ」必要
- 定時制通信制高校の今を「情報発信」する必要

「つなぐ」支援体制の構築

「生徒一人一人に対する細やかな指導」

○生徒の実態をみとり指導する…支援相談員の活用 ○特別な支援について検討する…ケース会議の開催

就労支援

ソーシャルスキル向上支援

学力向上支援

特別な支援を必要とする
生徒への支援

相談・支援体制の構築

定時制・通信制高校生徒の自信・学習意欲向上

進学、県内企業への就職促進・定着

1. はじめに

3. 多様な学習を支援する高等学校の推進事業

本日は、この事業における本校定時制夜間部の取り組み、中でも学校設定教科である「**職業**」の授業について、ご説明いたします。

2. 実践内容

1. 徳島中央高等学校定時制夜間部における

「多様な学習を支援する高等学校推進事業」の取組

- ①支援相談員の活用
- ②絵本の「読み聞かせ」を通しての情緒教育
- ③夜間部カフェによる仲間作り
- ④学校設定教科「マルチ基礎」による学び直しと
鳴門教育大学院生によるサポート体制
- ④学校設定教科「職業」の学習

2. 実践内容

2 学校設定教科「職業」の目的

働きながら学ぶ本校の生徒に、就業を通して、社会人として必要な基礎的・基本的な知識と技術を習得させるとともに、将来、企業での業務を主体的・合理的に遂行していく態度と能力、および職場等での円滑な人間関係の形成に努める態度を育てること目的とし、学校設定教科「職業」を設置した。この授業を通して、社会に出た時に必要な職業観や就業体験に向けた心構えを養う。

2. 実践内容

2 学校設定教科「職業」の目的

働きながら学ぶ本校の生徒に、就業を通して、**社会人として必要な基礎的・基本的な知識と技術**を習得させるとともに、将来、企業での業務を主体的・合理的に遂行していく態度と能力、および職場等での円滑な人間関係の形成に努める態度を育てること目的とし、学校設定教科「職業」を設置した。この授業を通して、社会に出た時に必要な職業観や就業体験に向けた心構えを養う。

2. 実践内容

2 学校設定教科「職業」の目的

働きながら学ぶ本校の生徒に、就業を通して、**社会人として必要な基礎的・基本的な知識と技術**を習得させるとともに、将来、企業での業務を**主体的・合理的に遂行していく態度と能力**、および職場等での円滑な人間関係の形成に努める態度を育てること目的とし、学校設定教科「職業」を設置した。この授業を通して、社会に出た時に必要な職業観や就業体験に向けた心構えを養う。

2. 実践内容

2 学校設定教科「職業」の目的

働きながら学ぶ本校の生徒に、就業を通して、**社会人として必要な基礎的・基本的な知識と技術**を習得させるとともに、将来、企業での業務を**主体的・合理的に遂行していく態度と能力**、および**職場等での円滑な人間関係の形成に努める態度を育てる**こと目的とし、学校設定教科「職業」を設置した。この授業を通して、社会に出た時に必要な職業観や就業体験に向けた心構えを養う。

2. 実践内容

3. 学校設定教科「職業」の内容

○週1時間1単位

○1年次には「職業基礎A」、2年次には「職業基礎B」を履修

○1年次は教室で、「生活スキル」「ビジネスマナー」を学習

○2年次は「職場体験」や「実習」を中心に

○2年次以降には、実務代替制度を利用し、アルバイトや正社員として働いた時間数に応じて「職業基礎A」に増加単位を認める

2. 実践内容

3. 学校設定教科「職業」の教材作りに当たって

○「就職しようとならない若者」の原因を考える

- ① 「正社員よりもアルバイトの方がいい」という考え
- ② 職場で人間関係が築けず離職
- ③ 新しいことにチャレンジする不安
- ④ 準備不足

2. 実践内容

4. 「職業基礎A」の取組

| 1学期 | 2学期 | 3学期 |
|-----------------|------------------|----------|
| 自分の生活を見直す | フリーター・ニート・正社員 | 身だしなみ |
| 将来設計 | しごとの力100 | 冠婚葬祭のマナー |
| 徳島を知る・徳島中央高校を知る | 職業適性検査 | 就職の流れ |
| 列車・バスに乗る | ビジネス文書の種類 | 求人票の見方 |
| 挨拶・人と話をする | ビジネス文書の構成 | ニュースを見よう |
| 手紙を出す | 実際にビジネス文書を作ってみよう | |
| 私の家計簿 | | |

2. 実践内容

4. 「職業基礎A」の取組

1学期

自分の生活を見直す

将来設計

徳島を知る・徳島中央高校を知る

列車・バスに乗る

挨拶・人と話をする

手紙を出す

私の家計簿

4月 新しい環境に飛び込んだ不安と期待。
明確な目標を持たせる。

5月 保護者の送り迎えから、自分で登校するようになる。
行動範囲の広がり。

この頃からアルバイトを始めるようになる。

6月 アルバイト先での人間関係を構築。
挨拶やコミュニケーションの重要性を感じる。

6月末になると、アルバイト代が入り出す。

生活費について考えさせることで、お金のありがたさを実感させる。将来に対する貯金を促す。

2. 実践内容

4. 「職業基礎A」の取組

2学期

フリーター・ニート・正社員

しごとの力100

職業適性検査

ビジネス文書の種類

ビジネス文書の構成

実際にビジネス文書を作ってみよう

9月 雇用形態による違いを理解させる。
会社が求めている力を知る。

10月 自分の適性を知る。

11月 ビジネス文書作成を通して、社会の仕組み、日本のしきたり、社会人としてのマナーを学ぶ。
1学期の授業「手紙を出す」の復習。

ビジネス文書実務検定3級合格
次年度に2級に挑戦

2. 実践内容

4. 「職業基礎A」の取組

3学期

身だしなみ

1月 改まった場面で正しい服装ができるよう指導。
冠婚葬祭での服装、マナーなど秘書検定の内容を中心に。

冠婚葬祭のマナー

就職の流れ

2月 就職に対する準備の大切さを説明。
求人票から必要な情報を読み取り、行きたい企業の条件を考える。
模擬就職活動として、求人票10枚から応募する企業を選ぶ。

求人票の見方

ニュースを見よう

3月 社会の情勢に敏感になる。

2. 実践内容

5. 「職業基礎B」の取組

| 1学期 | 2学期 | 3学期 |
|--------------------|-----------|------------|
| 職業を知る | パワーポイント作成 | 履歴書作成 |
| 就業体験先を考える | 就業体験の発表練習 | 面接練習 |
| 会社訪問の心得(TELでアポを取る) | 就業体験報告会 | 模擬面接 |
| 会社訪問の心得(訪問時の注意点) | ビジネス文書作成 | 受験生としての心構え |
| ビジネスマナー講座 | ビジネス計算の基礎 | |
| 就業体験先に手紙を出す | 企業調べ | |
| 勤務中の態度・姿勢 | 自分の長所発見 | |
| お礼状の書き方 | | |

2. 実践内容

5. 「職業基礎B」の取組

1学期

職業を知る

就業体験先を考える

会社訪問の心得(TELでアポを取る)

会社訪問の心得(訪問時の注意点)

ビジネスマナー講座

就業体験先に手紙を出す

勤務中の態度・姿勢

お礼状の書き方

4月 世の中にどんな仕事があるのか知り、興味のある仕事について調べさせる。

5月 就業体験先の希望を取る。
生徒の希望に応じて、教師が企業に連絡を取り、就業体験の依頼をする。

6月 電話でのマナーを指導し、実践させる。
就業体験を念頭に置き、訪問の際の注意点、勤務中の態度を指導。
就業体験終了後、勤務先へお礼状を出す。

2. 実践内容

5. 「職業基礎B」の取組

2学期

パワーポイント作成

就業体験の発表練習

就業体験報告会

ビジネス文書作成

ビジネス計算の基礎

企業調べ

自分の長所発見

9月～10月 パワーポイントの使って、就業体験を全校生徒の前で発表させる。

11月 ワードやエクセルを使って、グラフや表、地図等の作成。
電卓の基本的な使い方の指導。
ビジネス文書処理検定。

12月 本年度の履歴書等を確認させる。

2. 実践内容

5. 「職業基礎B」の取組

3学期

履歴書作成

面接練習

模擬面接

受験生としての心構え

1月 本格的な就職活動始動。

2. 実践内容

6. 「職業」の授業に関連したその他の取組

- 就業体験(6月～8月)
- 夜間部カフェの運営(2年次の1年間)
- 実務代替制度の活用
- 資格試験の勧め
- 外部講師によるビジネスマナー講座(全学年対象)

(株)さんぼう 浪越あゆみ先生による
「面接・電話でのマナー講座」

洋服の青山
「着こなし講座」

2. 実践内容

7. 学校設定教科「職業」のねらい

○「就職しようとならない若者」の原因を考える

① 「正社員よりもアルバイトの方がいい」という考え

フリーターと正社員の違いについて説明

② 職場で人間関係が築けず離職

職場で必要とされるビジネスマナー、
コミュニケーション能力や基礎的・基本的な技術の指導

③ 新しいことにチャレンジする不安

就業体験をすることによって、働くことに慣らしていく

④ 準備不足

2年次の冬から準備を始める

3. 成果

1. 「職業基礎A」を1年間指導して

- それぞれの教科で学習した内容を、総合的に組み合わせた授業内容。
- 自分の生活を見直し、自分の適性を的確に把握。
- 自分の将来設計を行い、見通しをもって計画的に学習生徒の現状やニーズに応じて授業内容を工夫し、学習した内容を即実践。
- 今、自分がどういう状況で何を必要としているか、何のために学習しているのかをよく理解し、目的意識をもって学習。

3. 成果

1. 職業基礎A」を1年間指導して

- 挨拶、服装、応対の仕方など職場で必要となる基本的なマナーは、学校生活やアルバイト先において円滑な人間関係を築く助けとなる。
- 求人票から必要な情報を読み取る力を養うことで、就職後のミスマッチを防ぐ。
- 一人暮らしにかかるお金、年金や保険等について学習することで、正社員として働く意識付けとアルバイトで得たお金を将来のために節約。

3. 成果

2. 「職業基礎A」を1学期間指導して

- ビジネス文書作成においては、文書作成ソフトの操作技術だけでなく、
時候の挨拶や敬語などの知識、文章の組み立て方などを習得
- ビジネス文書処理検定3級合格者1名。

3. 成果

2. 「職業基礎B」を1学期間指導して

- 習った内容を**即実行**しなければならないため、真剣に受けている。
- 就業体験先が生徒の**完全な希望**のため、やる気が出る。
- 就業体験に行くことによって、**高校卒業に対する意識付け**ができた。
- **企業で必要とされる技術や能力**などを**直接指導**してもらえた。
- 就業体験先で、「卒業後にうちで働かないか」と誘いを受けた生徒2名。
内1名は、現在、その会社でアルバイトとして働いている。

4. 今後の課題

- 学校で学習した知識や技術を、今後、社会で実践し定着。
- 卒業までに全員の進路決定に向けて、会社訪問や就業体験を実施。
- 必要となる知識や技術が何であるかを確認し、いっそう学習意欲を高める。
- 受け入れ先の企業開拓や企業研究を教員一丸となって行っていく。
- 秘書検定、ビジネス文書実務検定、珠算・電卓実務検定等、多くの資格取得を目指す。

4. 今後の課題

- 勤労意欲を高め、自立し、社会に貢献したいと思わせる指導。
- アルバイトではなく、正社員として雇用されることの意義や大切さをしっかりと認識させ、意欲的に就職活動に臨ませる。
- 離職率を下げる指導。
- 一般常識や基礎学力が社会人に必要とされるレベルまでに達していない現状。
- コミュニケーション能力が乏しく、些細なことでつまづいてしまう。

4. 今後の課題

- 各教科と連携し、総合的に生徒の学力を上げるとともに、学校行事やホームルーム活動等を通して仲間づくりを行い、集団行動を身につけさせ、社会性を伸ばしていきたい。